

平成21年度 第1回平田地域協議会 会議録（概要）

1. 日 時／平成21年4月14日（火）午後2時30分～午後5時

2. 場 所／酒田市平田総合支所 302号会議室

3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦）

奥山仁委員・阿曾智子委員・小林悟委員・和根崎勘一委員・堀弥志男委員・
長谷部耕次委員・佐藤力委員・加藤勝子委員・菅原律子委員・・・計 9名

（2）2号委員（識見を有する者）

阿部敬子委員・後藤保喜委員・富樫文雄委員・・・・・・・・・・計 3名

（3）3号委員（公募）

佐藤達也委員・藤原幸雄委員・・・・・・・・・・計 2名

（4）酒田市

阿部寿一酒田市長

平田総合支所 佐藤富雄支所長・石川忠春地域振興課長・

井上太地域振興主幹・中條幸弥市民福祉課長・

佐藤政好建設産業課長・土田瑞穂地域振興課長補佐・

地域振興課小松原毅地域振興主査兼地域振興係長・

地域振興課加藤千佳子主任・・・・・・・・・・計 9名

出席者合計23名

4. 欠席者／3号委員（公募）

富樫美雪委員

5. 傍聴者／2名

6. 次 第／（1）開会

（2）酒田市長あいさつ

（3）委員・職員自己紹介

- (4) 地域協議会の趣旨と仕組み等について
- (5) 会長・副会長の選出
- (6) 会長・副会長あいさつ
- (7) 会議録署名委員の選出
- (8) 報告
 - ①平田地域協議会地域課題等の報告に対する市からの回答について
 - ②平成21年度 平田総合支所地域づくり予算・酒田市主要事業について
 - ③コミュニティ振興会の体制について
- (9) 協議
 - ①平成21年度 平田地域協議会活動予定について
 - ②ひらた生涯学習センターに隣接する市有地の有効活用について
 - ③その他
- (10) 閉会

7. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 酒田市長あいさつ

▶阿部市長

本日委嘱状を交付させていただきました。快くお引き受けいただき、今後2年間お世話になるが、よろしくお願ひしたい。

合併して4年目に入っているが、合併協議の中で、合併後の5年を一つの区切り、次の5年をもう一つの区切りと考えてきた。最初の5年は制度の違いを段階的に合わせていくための期間であり、一つのまちにしていくためにくぐり抜けていかなければならない関門だと思っている。水道料金のように、安くなったものもある。公民館制度については、平田では10の分館で活動を行ってきたが、これを五つにまとめていただ

き、運営経費などについての自由度を増しながら、地域の皆様に費用的な支援を行っていく。区長制度については、区長、自治会長、協力員といった異なる制度に分かれているが、一つにする作業を行う1年となる。

次の5年では、合併特例債という有利な財政措置を活用しながら、地域の課題を解決していく。もう一つ大事なことは、合併によって職員を多く抱えたわけだが、一つの市になって行政の効率性を目指すうえではやっぱり多いということになる。現在は地方交付税で国が手当てしてくれているが、10年間で適正な定員にしていかなければならないという宿命を負っている。

合併後4年目に入ったが、地域協議会や市議会のご尽力、市民のご理解とご協力、総合支所の努力により、合併については課題を残しつつも順調に推移しており、合併によって財政がくたびれてヘトヘトということもない。地域の課題についても少しずつではあるが解決していると思う。いろいろな意見があったとしても、一定の評価をいただける合併になったと思っている。

しかし順調とはいっても、地域の皆さんの声を聞きながら、地域の夢、地域の活性化をどう図っていくかは大きな課題となる。仁助新田のAコープを例にとれば、山元・田沢・中野俣・北俣・山谷などでは、閉店してしまえばお年寄りを中心に大変な問題となる。幸いにして今回は運営していただけた方が現れたが、こうしたことも今後の課題となってくる。集落が川に沿って発達してきたというのは平田地域の特徴であり、過疎対策なども大きな課題である。そんな中で地域の皆さんの意見をまとめながら、市と共に課題を解決していくのが地域協議会に課せられた使命だろうと思う。大変難しい課題にも取り組んでいかなければならないが、夢のある仕事もできる。

通常であれば、議会对市当局として相対するような構図となるが、ここでは総合支所とタッグを組んで地域振興に向かう段階に入った感がある。これまでは制度の統一など格差の是正に取り組んできたが、今後は平田独自の良さをどんどん出していく方向での議論を行って欲しい。夢を語っていただきたいと言いつつも財政は厳しいものがあり、すべてが叶えられるかは分からないが、地域のため2年間様々な議論を交わし、活発な地域協議会にしていきたい。

私たちが各地域に入らせていただき、地域の皆様の声を聴いているつもりであるが、まだまだ不足している部分があると思う。「こんなふうにしてもっと意見を聴いたら」ということがあれば、教えていただきたい。これからも皆様からお力添えをいただきたく、重ねてご協力をお願いし、あいさつとしたい。

(3) 委員・職員自己紹介

▶各自自己紹介

・・・松山地域協議会での委嘱状交付のため阿部市長退席・・・

(4) 地域協議会の趣旨と仕組み等について

(地域協議会とは、設置条例、設置条例施行規則、会議運営規定、活動状況)

▶石川地域振興課長より説明

(5) 会長・副会長の選出

▶石川地域振興課長

会長が決まるまでの議長を年長の委員にお願いしたいが、いかがでしょうか。

▶一同

意義なし。

▶石川地域振興課長

意義なしの声なので、長谷部耕次委員に議長をお願いします。

▶長谷部委員（議長）

皆さんから忌憚のないご意見をいただき、地域協議会が今後2年間スムーズに運営され、また住民の付託に応えられるような結果を出していければと考えている。この4年間、地域協議会を外から見てきた。

委員の皆さんからは、この組織は行政の従属団体ではないということをご理解いただきたい。地域協議会は、地域について自ら考え、自ら協議をし、それをどのような形で住民へフィードバックできるのか、重要な役割を担っている。

地域協議会は市長の諮問機関ではあるが、それにとどまらず、住民の意見、生活のあり様を議論し、行政に意見を述べ、住民へフィードバックしたい。平田町においては総合審議会や町議会など、様々な角度から地域のあり様を議論してきたが、地域協議会はこれらに替わりうる重要な組織である。各委員においては、選出された団体の立場での発言、識見を持つ者としてノウハウ、公募委員においては自らのポリシーなどを発揮していただき、住民の付託に応えられる協議会にしていければと思っている。

条例では、「会長及び副会長は、委員の互選によって定める」となっている。いかがいたしましょうか。

▶富樫委員

過年度においても、地域協議会の会長として県道酒田松山線や中山間の問題などについて、真摯に皆さんの意見を聴けるような雰囲気づくりを行ってきた。これからも、平田地域としての市政の繁栄や生活圏の確立という大きな課題に向け、皆さんの意見をまとめながら、積極的に行動する地域協議会にしたい。

自薦という形になるが、会長として再度皆さんからご支持をいただきたい。

▶佐藤力委員

引き続き、富樫文雄委員に会長をお願いしたい。

▶長谷部委員（議長）

富樫文雄委員を会長とすることに賛成の方、挙手をお願いします。

【全員挙手】

▶長谷部委員（議長）

引き続き富樫文委員を会長とすることに決定する。

副会長についてはいかがいたしましょうか。

▶一同

会長一任。

▶長谷部委員（議長）

副会長については会長に一任する。各委員からは、今後2年間積極的に意見を述べていただき、地域協議会を推し進めていただきたい。

(6) 会長・副会長あいさつ

▶富樫会長

皆さんありがとうございました。

今回、識見を有する者として地域協議会委員の推薦を受けたときに悩んだ。これまでも地域協議会の委員として、町議会議員として、住民の声を市政や町政にどう反映させるか考えたとき、非常に悩む場面が多かった。合併して地域協議会が発足し、委員として新しい形も見せてもらったが、阿部市長や長谷部委員も話したとおり、住民の声を聴き、まとめあげ、この地域の声として一つでも実行できるものにしたいということについて情熱や想いは尽きず、委員の委嘱を受けることにした。

今後は積極的に行動する地域協議会として、新たな気持ちを持ちながらも会長、副会長が先走ることなく、市政の繁栄に向け地域協議会と行政とが一体となり、プラス思考の協議を行っていきたい。

副会長の選出について検討するため、休憩の時間をいただきたい。

▶富樫会長

再開します。

選出の経過をご報告します。平田地域では今年度からコミュニティ振興会が立ち上がり、五つのコミュニティ振興会から一人ずつ地域協議会の委員が選出されている。

山形県知事が女性となり、酒田市でも各種団体における女性の参画を推進しているという背景もあるので、前の副会長でもある菅原律子委員を副会長に選任したい。よろしくお願い申し上げます。

▶菅原副会長

富樫会長から副会長のご指名を受けたが、大きな責任に不安も感じている。地域協議会を盛り上げていくため自分なりに努力していくが、委員の皆さんからも絶大なるご協力をいただき、2年間よろしくお願い申し上げます。

(7) 会議録署名委員の選出

▶富樫会長

これまでの選出方法について、事務局より説明してもらいたい。

▶石川地域振興課長

会議録署名委員については、委員名簿の順番で正副会長を除いた委員にお願いしている。名簿掲載順だと今回は奥山仁委員になる。

▶富樫会長

奥山仁委員を今回の議事録署名委員とすることに、ご異議ございませんでしょうか。

▶一同

意義なし。

▶富樫会長

今回の議事録署名委員に奥山仁委員を選任する。

(8) 報告

①平田地域協議会地域課題等の報告に対する市からの回答について

▶石川地域振興課長より説明

▶長谷部委員

合併以降の平田地域の現状や方向について、富樫会長自身はどう考えているか。

▶富樫会長

合併に際しての課題や要望などについて、100パーセント達成した状況にはなっていないととらえている。

合併は相手があることではあるが、相手に迎合することなく平田地域の良さを堂々と出していきながら、協調すべきところは協調することだと考えている。合併してまちの規模が大きくなり市民生活も変化するなか、我々市民と行政とが一体となり、新市における平田地域の良さを出していかなければならない。

自分もこれまで地域協議会の委員を務めてきて、住民サービスの最前線である行政の、総合支所の機能についてどうなっていくのか危惧を抱いている。これについては、地域協議会においても議論させていただく。

地域協議会は議会と異なり、市の予算について審議するのではなく、地域づくり予算という形で地域に対する予算の厚みを増していくための提案を行う組織である。平田地域協議会として、地域課題の解消や平田地域の市民生活の安定に向けどしどし提案していきたい。委員は各界各層から集まっており、全員から問題提起や意見を述べていただきたい。

▶長谷部委員

合併後に地域協議会を設置することについて、合併に至る経過の中では「屋上屋を架すことになる」という意見も出るなど、すんなり決まったわけではない。裏返せば、それだけ地域協議会が重要であるということ。

合併後4年になろうとしている。合併時の条件、また地域の伝承文化や住民の生活などについての状況を地域協議会として検証し、住民に知らせて不安を解消していくべき。

▶富樫会長

長谷部委員の発言は、合併に向け新市建設計画に盛り込まれた主要事業について、検証すべきとのことだと思う。主要事業には、田沢川ダム周辺整備事業、森林資源の活用基盤整備事業等々がある。一つひとつ精査・検証して市民に報告せよということであるが、別の事業に包括・移行されたもの、圧縮されたものなどがあり、地域協議会ですべてやるのは無理だと思う。

主要事業等について、継続しているもの、止まっているものなど事務局から資料を提出させることは可能であるが、すべての事業について検証するというのは、地域協議会になじまないと考える。

▶長谷部委員

地域協議会における議論の内容や新市建設計画が現在どうなっているのか、住民から理解してもらうためにどういった手法で伝えるのか、委員の推薦団体など土台となる所に答えを返すための努力が必要だと思う。

すべてというのは無理だろうが、平田町総合計画で重要と位置付けた主要事業でも、現在未実施のものや縮小された事業がある。これらについて

て地域協議会の委員からも理解してもらい、住民に伝えることも必要だ
と思う。

▶佐藤支所長

新市建設計画において、合併後3カ年主要事業として位置付けた事業
については、常にチェックしながら進行管理を行ってきた。地域住民へ
の報告についても、各公民館を訪問しながら予算や執行状況について報
告を行ってきた。また税や公共料金など住民の負担に関わるもので、合
併に際しての調整項目とされたものについては、説明会の開催や市広報
への掲載などで改正内容の周知を図っている。

新市建設計画についてのご指摘は、単年度ごとの報告では全体が見え
てこないということだと思うが、合併後3カ年主要事業の状況について
は事務局で一覧表を作成し、次回の地域協議会で報告したい。新市建設
計画で合併後4年目以降の事業として位置付けたものについては、酒田
市の総合計画に引き継がれているとご理解いただきたい。

4月から五つのコミュニティ振興会が立ち上がっているが、地域づく
り活動、生涯学習活動とも今後はコミュニティ振興会から取り組んでい
ただくことになる。地域づくりに対する意見についてもコミュニティ振
興会から上げていただきたいし、市に対する意見の吸い上げ、市の予算
や事業内容についての報告も、コミュニティ振興会を通して行っていき
たい。

▶佐藤力委員

阿部市長のあいさつの中で、合併は順調に推移しているとのことだが、
合併時の約束事として、地域の最優先課題を合併後3カ年主要事業に位
置付けたととらえている。具体的な事業について、他は目に見える形と
なっているのに対し、平田地域については見えてこない。このことを地
域協議会として、もっと強く市に申していくべきではないか。

▶富樫会長

長谷部委員の発言も佐藤委員の発言も、住民の要望等について、合併
した後の成果がどのような形になっているか説明して欲しいということ
に尽きると思う。主要事業の状況や推移については、次回の地域協議会
のときに報告をお願いします。

新市建設計画で合併後3カ年主要事業に位置付けられた事業は22事
業、合併後4年目以降の事業としているのが17事業ある。平田地域協
議も、今年度から新しい体制でスタートラインについたところであり、
主要事業等についての経過や今後の見通しについては、次回ご報告させ
ていただきたい。

②平成21年度 平田総合支所地域づくり予算・酒田市主要事業について

▶石川地域振興課長・井上地域振興主幹・中條市民福祉課長・
佐藤建設産業課長より説明

▶佐藤力委員

地域づくり予算について、これまでは1,000万円という枠の中で総合支所の裁量により予算を組み立てていたと思うが、平成21年度に950万円となったことや、予算の仕組みについて説明してもらいたい。

▶石川地域振興課長

平成21年度の地域づくり予算については、11事業で予算額950万6千円となっている。目的達成による事業の終了や他の事業への移行ということで、平成20年度に実施した赤ねぎの振興に向けた助成事業、保育園児を対象とする農業体験事業、10分館の活動に対する助成事業の3事業について、今年度は外れている。

合併当初は1,000万円を超える予算額であり、総合支所において地域協議会の意見も伺いながら、新規事業も立ち上げて予算を組み立ててきた。しかし平成21年度から、市全体の事業との整合性なども含めて査定を受け、目的達成による事業の終了、継続事業についての予算の削減などもあり、950万6千円という予算額になっている。

▶長谷部委員

砂越駅構内人道橋改修事業に関連し、情報提供したい。現在ふれあい商工会が市から業務委託を受けている砂越駅の管理について、ふれあい商工会としては委託を受けない方向である。無人化以降、平田町では非行防止や犯罪防止の目的で砂越駅に管理人を置いてきたが、合併以降、こうした経緯や目的について行政から理解されていない。

委託を受けない理由は、委託事業の精算書を市に提出したところ、何かあったときに備えるための内部留保的な部分の金額について、余剰金であるから委託費を削減すると言われていることである。早朝から11時間という、管理人の非行防止や地域安全に向けた努力が理解されないのであれば、委託を受けないという話になっている。

▶富樫会長

情報提供ということで受け止めさせていただきたい。

③コミュニティ振興会の体制について

▶井上地域振興主幹より説明

▶富樫会長

昨日、すべてのコミュニティセンターを回ってきた。施設の備品についても整っていないし、事務職員も事務処理・会計処理に慣れておらず

不安な様相であった。

コミュニティ振興会の事務職員には、総合支所としてコミュニティ振興会ごとに担当職員を配置しているため、井上地域振興主幹や担当職員に相談するよう励ましてきた。総合支所からの支援や指導について、よろしくお願ひしたい。

(9) 協議

①平成21年度 平田地域協議会活動予定について

▶石川地域振興課長より説明

平田地域協議会について、平成21年度は年間4回の開催を考えている。そこで協議いただいた地域の課題や課題解消に向けた提案について、年度末ごろに市長へ報告いただく予定となっている。

大きな課題としては、先ほど富樫会長からあったコミュニティ振興会のスムーズな運営、もう一つは中山間地域の振興である。コミュニティ振興会に対しては、市としての支援を継続していく。中山間地域の振興に向けては、ひらた生涯学習センターの機能やあり方について検討していく予定となっている。

②ひらた生涯学習センターに隣接する市有地の有効活用について

▶石川地域振興課長より説明

ひらた生涯学習センターの隣に、未利用の市有地がある。市としては、「ひらた生涯学習センターは中山間地域の拠点であり、隣接市有地の活用も含めて機能強化を図っていくことが中山間地域の振興に直接つながる」と整理している。

平成20年2月17日に市長へ報告した地域課題等への回答としては、「ひらたコミュニティ（生涯学習）センターの機能強化については、行政だけでは限界もあるので、中山間地域の振興も含めてコミュニティ振興会の活動の中で行政と一緒に進めていきたい」との考えが示された。

また、ひらた生涯学習センターへ名称を変更するにあたり、2月19日に開催された教育委員会による説明会の中で、「生涯学習センターは青少年の研修やスポーツ合宿などに活用できる特色ある施設であり、充実した使用ができないか考えている。中山間振興に向け、生涯学習の視点から検討していきたい」との考えも示されている。

こうした基本的な考えを受け、「施設の管理・運営は、行政と地域とが一緒になって行う」、「未利用地の有効活用については、ひらた生涯学習センターの機能強化と一体的な活用が必要」との方向性が見えてくる。

今後の進め方としては、田沢コミュニティ振興会、東陽コミュニティ

振興会などからも意見を伺いながら活用方策の検討を行い、その経過を地域協議会に報告して協議いただき、市の関係各課とも調整を図りながら、地域が主体となって方策案を取りまとめていく形となる。

▶堀委員

土地を取得し、現在利用されていないことの経過を説明していただきたい。

▶長谷部委員

平田町時代から、長い間未利用となっている土地はどのくらいあるのか。

▶石川地域振興課長

面積が大きく活用方法が課題となっているところは、仁助新田のひらた生涯学習センター隣接地と寿康園前の残土置き場として使用されている土地の2箇所である。仁助新田の土地に関しては、新市建設計画において合併後3カ年主要事業の中山間交流拠点仁助新田整備事業として位置付けられていたが、着手されていない状況である。

事業内容は、旧コミュニティセンターの機能強化や公園整備である。取得経過は、田沢川ダム建設事務所の跡地等を平田町で取得したものである。その目的は、公園的に整備をするなど旧コミュニティセンターとの一体的活用、中山間地域の人口減少対策・定住促進に向けた町営住宅の建設や分譲地としての宅地造成であった。

事業が実施されていない理由としては、市街地においても土地区画整理組合等で造成した宅地が残っている中で、民間の事業を優先させるためにも、市として宅地造成を行う状況にはないという考え方である。

▶富樫会長

休憩します。

▶富樫会長

再開します。

③その他

▶富樫会長

地域協議会として、委員による自主研修の機会を持ちたい。よろしくお願ひしたい。

(10) 閉会

▶石川地域振興課長